

CAVOK 2014年航海日誌 NO4
(8月16日(土)Kemer ~ 8月29日(金)Marmaris)

松崎義邦氏メール(9月1日)

皆様に

8月16日より今年の後半の航海をスタートしました。

昨年の秋からの係留ですっかり馴染みになったトルコ地中海側をおさらいするようにエーゲ海への向けての航海です。

今回のゲストは昨年も参加した慶応の後輩の正田さん(ホッケー部 53 年度卒)が最初のケメル(Kemer)からマリマリス(Marmaris)迄約3週間、そして途中からイスタンブール在中の奥村純代さん(A級ディングー関係)が1週間ほど一緒しました。

この海域は天候が大変安定していて毎日快晴、そして陸風、海風の程よい風が吹き、午後からの10~20ノットの海風はセーリングに快適です。

地中海側トルコは夏は大変暑く、日中は気温が40度近く上がります。幸いなことに湿度が低いので日陰で風に吹かれると心地よく過ごせます。

錨泊の静かな海で夜空の満天の星を見ながらコックピットでオンザロックを飲むのは極上の世界でした。

カロロツザ(Karoloz)の錨泊地では竜宮の世界を思い起こすような亀と一緒に泳ぐシーンにも遭遇しました。

この航海の楽しみの一つであるお料理を、35度を超す暑い艇内で汗をかきながら料理してくれる妻の悦子には大変感謝です。

8月29日には69歳の誕生日を迎えましたが、心はまだまだ青春、自由時間を十二分に楽しみたいと思っていますので皆様の応援よろしくお願い致します。

Marmarisにて

松崎義邦

航海日誌

2014年<後半>

8月12日(火)羽田～Frankfurt

11日深夜便のフランクフルト行きを予定していたが空席待ちの為12日11:25発のフランクフルト行きにした。幸い前日のオンラインチケットで確保出来た。

米谷家の豪ちゃんと3人の孫が見送りに来てくれた。

NH223は予定通りフランクフルトに到着、バゲジを待っていたらNH223のクルーに会う。教え子の松本キャプテンだったので懐かしかった。

今日はアンタリアに行けないので空港の近くのシュタイゲンベルガーホテルに泊まる。

2011年の時もトランジットで宿泊したが空港から24時間動いているホテルバスもありそして施設も充実した良いホテルである。

プールとサウナで汗を流し時差を取る。

8月13日(水)Frankfurt～Kemer

初めて使うCondor航空はルフトハンザの子会社だ。フランクフルト、アンタリアをダイレクト飛ぶので助かる。料金もプロモーション価格で一人130EURだ。出発時刻が14:35なのでゆっくりと朝食をとった後プールとサウナを楽しむ。

Condorの機材は珍しくB757-300であった。ほぼ満席だった。定刻の30分以上前からの搭乗開始には感心する。定刻前にはドアクローズであった。

定刻19:00にアンタリア空港に到着、21:25イスタンブールから到着する今回一緒に乗る正田さんを待つ。

3人揃ったところにブレントさんが迎えに来てくれ、ここから55km南のケメルに向かう。

日中の気温は40度位迄上がって夜も暑い。早速ビールとワインを飲んで疲れを癒し、シャワーを浴びて、寝るが扇風機を回して寝たら暑さを感じずぐっすり寝むれた。トランジットで一泊したのが疲れを取ってくれた。

8月14日(木)Kemer 快晴

買い物を未だしていなかったのが朝食の食材がないので近くの浜辺にあるコーヒーショップで済ます。

朝8時だというのに海水浴客がやってくる。

昼前にブレントが彼の家族に持って来たお土産を取りに来る。我々は町を買い物がてら散歩した後、艇に戻り昼食にソーメンを頂く。

ビールを飲んで気持ち良くなりコックピットで午睡をする。

夕方海水浴に正田さんと一緒に行くが、海水浴場は歩く場所を探すのに苦労するくらい混んでいた。

海の水は綺麗で泳いでいて気持ち良い。

夕食前ブレントのお店によって美人姉妹にトルコに戻った旨の挨拶をする。お姉さんには春先整備に来ていた時に毎日お昼をご馳走して頂いていた。夕食はブレントと一緒に、毎回ゲストが来ると行くシシケバブのレストランで取る。ブレントに注文を任すが焼きが上手で美味しい。

8月15日(金)Kemer 快晴

お昼にブレントが迎えに来てくれ、全員で彼の自宅のあるギョイニユックの金曜バザールに買い出しに行く。当分の食料を調達する。その後彼の自宅でお昼をご馳走になる。大家族で2姉妹と弟さんの奥さんがお昼を作ってくれた。総勢10名ぐらいが、床に敷物を引いてその上に食べ物を並べて、それを囲むように座って食べるトルコの実家の食べ方だ。

ヨーグルトと胡瓜のスープ、ナスにひき肉を詰めたカルヌヤルク、ドルマ、鶏のグリルそして焼き飯、自家製パンを頂くが上手な料理で美味しかった。

明日約十か月お世話になったケメルマリーナを出港するので事務所で清算を済ませます。

夕方彼のお店に寄って店を手伝っているお姉さん、妹さんにお礼をする。

夕食はお昼が大ご馳走だったので味噌汁、ご飯、漬物で済ませます。

8月16日(土)Kemer Cinevis(16NM) 快晴 南東5~7ノット

7月3日にKemerで前半の航海を終了してから約1か月半振りの航海が始まる。

すっかり馴染みになったKemerを去るのは寂しいものがある。

すべての点検を終わった後ブレントの見送りを受けて10:10に帆を解く。



静かな海で風は南東のそよ風でほぼ登り一杯のコースになる。日中の温度が上がって暑いですが登りの風なので風を全面受け、久しぶりのセーリングが気持ち良い。

何回も観たが海岸沿いからタタリ山の 2360m を始め、そびえ立つの山々が一層海の景色を引き立てている。

Cinevis は小さな入り江で、今回で 4 回目の錨泊になる。流石夏のオンシーズンだけあって既に 30 隻ほどの観光船、ヨット、モーターボートが入っていた。

10m ほどの深さの所に砂地の場所を見つけて 14:00 アンカーを打つ。40m 程チェーンを延ばす。

早速泳いで体を冷やした後冷やし中華のお昼をビールで頂く。

入り江に錨泊してから風が無くなり暑いので頻繁に海に入り体を冷やす。夕暮れ時から山からの北西の吹き下ろしの風が吹き出すが陸からの風で生温かい風だ。風は結構振れてアンカーを打ってスターンを岩壁に舫っている艇に我々の艇が振れて大分接近したりして気になったがアンカーを打ち直すまでにはいかなかった。

近づいたガレット船の観光客にどちらから来たか聞くとイタリアからとの事だった。

イタリアも良い海が沢山あるが一味違うトルコの海と云う事か？

夕食をラムのグリル、マッシュルームのグリル、ラタトゥーユ、ミント入りのトルコ風サラダを赤ワインで頂く。親友の奥さんのロッコがプレゼントしてくれたキャンドルライトがゆらゆらと炎で照らしてくれ、夕食に花を添えてくれた。

夜は暑かったので風通しの良いコックピットで正田さんと寝るが夜中になると涼しくなりキャビンに入った。外も中もぐっすり寝むれた。

8 月 17 日(日) Cineviz Fineki(27NM) 快晴 微風 ~ 南 10 ノット

朝起きると 30 艇居た艇が半分ほどになっていた。朝食を簡単に済ませてひと泳ぎしてから 08:50 にアンカーを揚げて静かな入り江を出ていく。

風は北東風で方向は良いが弱いので機走する。岬を越えてから南西に風が変わり向かい風になる。最終レグ残り 10NM で南の 10 ノットほどの風が吹き出し最後の 2 時間セーリングを楽しめた。

フェニキのマリーナは今回で 5 度目の入港になる。無線で呼び出すと二人載ったラバーボートが来て係留場所迄誘導してくれ 13:30 に舫いを取ってくれた。

お昼はスパゲティーをビールで頂く。船内の温度計を見ると 32 度を指していた。

遅いお昼になるが 14 時前の入港ではお昼は着いてからにしている。

オフィスでの入港の手続きは何回も来ているので書類の提出もなく簡単に終わる。オフィスのクーラーが心地良かった。

夕方になってから町に買い物に出かける。この辺りは錨泊に良い入り江が沢山あるので我々は錨泊を多く取り入れているので食材の準備も重要だ。

それぞれシャワーや水浴びで体を冷やした後コックピットでの夕食を楽しむ。夕方になり暑さも弱まり気持ち良い中での夕食になる。

イチジクの胡麻ソース、万願寺唐辛子のおしたし風、チキンラビゴットをチャンカヤの白で頂く。

いつも美味しい料理を作ってくれ感謝する。

風は陸風に変わり気持ち良い夜を楽しんで眠りに就く。

8月18日(月) Finike Karoloz (18NM) 快晴 南5~10ノット

今日は短い距離なのでゆっくり出港することにした。

朝食後それぞれのんびり過ごしてお昼に鶏どんぶりをシジミの味噌汁で頂いた後12:30に出港する。

風は南風でコースは西だったので10ノット前後の風をアビームに受けながらケコバ島の入り江 Karoloz を目指す。

珍しく山側に雲が出ていた。若干うねりのある海だったが良い風を受けて気持ち良いセーリングを楽しみ Karoloz の入り江に14:40にアンカーを打つ。ここは幅の狭い入り江なので船尾から岩壁に舳取り触れ防止をする。水深は9mの砂地だった。

他にカタマラン艇とモノハル艇、そして大きなガレット船が錨泊していた。

静かな入り江で泳ぐと子魚が群れをなして泳いでいた。岸壁にはゴートが厳しい傾斜の岩壁を歩いていた。

泳いだ後エビのタパス、長ピーマンのタパスをジン、ビール、レモンの入ったカクテルのブルで楽しむ。静かな自然の中の泊地の雰囲気は素晴らしい。

夕食はラムのグリル、野菜炒め、サラダをゆらゆら煌めく電池式キャンドルライトの下で頂く。

星空が綺麗でビミニ(日除けテントをオープンにして天空を楽しんで眠りに就く。

今日も正田さんと私はコックピットで寝た。

8月19日(火) Karoloz Kale koy (5NM) 晴れ 微風

今日も朝食後泳ぐ。この入り江では亀が居て数匹見る事が出来た。追いかけて泳ぐと同じような速度で逃げる様に亀が泳ぎその後を暫く追い掛けたりして遊ぶ。水中写真でも良く取れた。



錨泊していたヨットが出てその後には又ヨットが来たりしていた。我々は 10:30 にアンカーを揚げてケコバ島の向かいの本土のカレコイに向かう。約 5NM の近い距離なので機走する。

おなじみになった Hasan's Roma のレストラン棧橋に着ける。シーズンの割には舳っている艇は少なく 1 艇だけだった。

小さな観光船が次から次へと棧橋に着け客を運んでいる。この村は風光明媚なのとヴェニチア時代の城塞があるので観光スポットになっている。

ヨットも徐々に入ってきて 5 艇が棧橋に舳った。

綺麗な海なので皆さん泳いでいる。我々も泳ぐ。

我々の後ろに舳った艇はイギリス人、ロシア人、フランス人の混成チームの面白い組み合わせだった。

夕食はこの棧橋の Hasan's Roma でスズキのフィッシュスープをメインにカラマリフライ、ズッキーニボール、野菜サラダを白ワインで食べる。フィッシュスープの味は自慢の料理だけあり、味に深みがあり美味しかった。残った分は艇に持ち帰る。

325 トルコリラ (約 16000 円) は料理の割には、若干トルコとしては高いが係留料込なのでまーまーかと思う。

艇に戻り風にも消えない日比谷坦子さんからのプレゼントの LED キャンドルライトの炎を見ながら夜を楽しむ。

日中は 35 度以上で夜もまだ暑く、艇内で寝るのは暑くコックピットで風を受けながら涼むのが心地よい。

8 月 20 日 (水) Kalekoy ~ Polemos (Kekova) (2NM) 快晴 西 10 ノット

棧橋には我々の後ろに一艇舳っておりその艇が出てから出港することにする。

後ろの艇 (Marco Polo) は例の混成チームだが、その中の素敵な気品のあるご婦人が CAVOK5 をスケッチしてくれそれをプレゼントしてくれた。彼女はロシア人だがフランスに住んでいるようだ。

一緒に写真を撮らせてもらう。

彼女達が出た後すぐに我々も 11:20 に舳いを解き同じ Kekova にある Wooden Bay に行く。ここは昨年寄った所だ。途中 Ugaji の湾によってから Wooden Bay に行くが錨泊のポイントが上手く見つけられず Kekova 湾の奥にある Polemos にアンカーを打つ。ここは底が砂地で深さが 6m 前後で大変安心できる錨泊地である。

お昼を昨日食べきれなかったフィッシュスープをテイクアウトしたのでそれをリゾットにして頂いた。素晴らしい味が出て美味しかった。

東西に長い湾で西風が気持ち良く入り食後の午睡を楽しむ。

15時過ぎにラバーボートを降ろして錨泊出来なかった Wooden Bay に行く。この小さな入り江は湧水が出ていて所々海水が冷たく気持ち良い。何せ海水温が29度、気温が35度あるので冷たい海水はオアシスの様だ。

今日は一日西風が10ノット強吹き暑さを飛ばしてくれる。

夕食は鶏の照り焼き、ニンジンの卵とじ、野菜サラダを気持ち良い風が吹くコックピット頂く。魔法のキャンドルは風にもめげずテーブルを照らしてくれた。

今日は自然の風を一日中満喫出来た。

コックピットの日よけを外し、夜空を眺めて夜長を楽しんだ。

8月21日(木) Polemos Kas (18NM) 晴れ 南西4~6ノット

ここは湾の奥まった中にある錨泊に最適な場所だ。静かな海で朝を迎える。朝食の後シャワー代わりに泳ぐ。

08:50にアンカーを揚げて Kekova 島の入り江 Tersane を覗くが狭い入り江でガレットが2艇錨泊して中に入り辛そうだったので諦めて Kas に向かう。

途中から南西の弱い風が吹き出したのでセーリングを楽しむ。速度は3~4ノット位だが今日のレグは短いのでお昼にキジ丼ぶりを頂きながらのんびり航海をする。登りになるので風が入り気持ち良いセーリングになる。

Kas Maina も何回か来ているのでラバーボートに乗ったスタッフが覚えていてくれた。

14:10に舫いを取る。ここにも日本語をしゃべれる知り合いがいるので彼の店に顔を出して挨拶する。日本語は日本との取引がある関係で覚えたそう。

マリーナの隣はプールと海水浴場があり、正田さんと二人で泳いでプールサイドでビールを飲む。

夕食前に一杯飲んでいると英国人の年配の方が話しかけてきた。この方がおじいさんでこの夫婦、娘夫婦、孫たちの家族でセーリングを楽しんでいる。

彼は孫の17歳の少年が日本語を勉強中だということなので艇に来よう誘ったら全員来て賑やかなミーティングになった。御嬢さんは“根付け”を知っていた。彼女はジェリー造りが趣味の様だった。



夕食はラムカレーと胡瓜の浅漬けを頂く。夕方から気温が下がり過ごしやすい夜だった。

8月22日(金) Kas ~ Yesilkoy Limani(Kalkan)(15NM) 快晴 微風

Kas Marina のマネジャーがオフィスの前を通るとわざわざ出てきてくれ私を覚えていてくれ挨拶をしてくれる。再会を約束する。そして昨日チャイをご馳走になったトルコ人の Alpaslan に挨拶に店に行くが彼は Fethiye に出かけていなかったなので店の店員にサヨナラを伝えて置くようお願いする。

11:30 に昨日一緒にいたイギリス人夫妻(Geoff & Caroline Quentin)と孫(Otto)の見送りを受けて出航する。

今日も同じような天候だが風が無く 15NM 全行程機走になる。

Kalkan のマリーナには何回か入っているが今日はマリーナの近くのアンカーレッジで錨泊をすることにした。ここは以前アランヤで知り合ったドイツ人と結婚しているフミさんが教えてくれたポイントだ。

機走で走っているときは風を受けて気持ち良いが丁度お昼のを食べるころ風が後ろに廻り風を感じなくなる。お昼はアツアツのカレーうどんを、汗をかきながらビールと共に頂く。

ガレット船が数艇、ヨットも数艇舫っていたがガレット船が出た後の場所にアンカーを打つ。深さ 6m の砂地で安心して錨泊が出来る。岸壁に船尾からも舫いを取る。

風が無く大変暑く、船内は 36 度、海水温度は 29 度と海に飛び込まないと暑さを凌げない。フミさんのリコメンドの錨泊地だけあって透明度の高い海で気持ちが良い。

18 時になると湾を囲む西の山に太陽が隠れ、日よけを外すことが出来てホットする。

陽が沈むとともに北東からの陸風が吹き始め助かる。

海の上での食事は美味しい。今晚はステーキ、トマトサラダ、ナス田楽を赤ワインで頂く。ステーキは久しぶりだったが柔らかくて美味しかった。

風が艇内にも通り心地よい眠りに就いた。

8月23日(土) Yesilkoy Wall Bay(41NM) 快晴 西 20 ノット

0820 にアンカーを揚げる。今日の天気予報は西風が午後強くなり、夜半にはもっと強くなる予報だったので Gemiler の錨泊を止めてそこから約 10NM 先にある Wall Bay のレストラン棧橋に目的地を替える。

湾を出ると当初北北西の風が 15 ノット程度吹き暫くセーリングするが風が西からの真迎いの風に変わり機走する。半分ほど来たところで風が西南西に変わりコースも北西になったので 3 ポイントリーフにして揚げる。予報通り、時折 25 ノット程度の風にな

リクローズで6~7ノットキープしたセーリングになる。今回 同乗者はヨット経験者の正田さんなので引き返すこともなく目的地に行く。



お昼は揺れが大きいのでビールとビーフジャッキーで済ます。揺れのある時は、贅沢は言わない。

Wall Bay は Fethiye の近くだがこの辺りに来ると多数のヨットを見る。

狭い海峡を抜けて湾内に入るが相変わらず 25 ノット前後の強い風が吹き白波だらけだった。

1年ぶりに Wall Bay のレストラン桟橋に着ける。

お昼を食べてないので早速レストランでメゼ、カラマリフライ、ポテトフライをビールで食べる。ここもレストランで食事すると係留代は取らない。但し電気、水道は着いていない。

食事の後ひと泳ぎする。夕食はタイ風カレーを白ワインで頂く。

ビミニの日よけを外して満天の星を見ながらコックピットで寝てしまう。夜こちらで Katabatic と云う風が時折唸りをあげていたが囲まれた桟橋では心地よい風になって吹いてくれた。



8月24日(日)Wall Bay Gemiler (15 NM) 快晴 南西 10 ノット

毎日同じような好天が続く。気温の方も日中は40度近く上がり、艇内での気温は36度を指す。

夜は眠れないほどの暑さは無くコックピットで寝ていると夜半涼しくなり船内に入らないと寒いくらいになる。

今日は昨晚風の予報が強かったので錨泊を止めた Gemiler に行く。やはり今日も昨日程ではないが予報で夜若干強めの風が出ているので Gemiler でアンカーを打ってお昼を食べた後 Fethiye に行く計画をしていたが、モーターボートに乗ってきた男が固定ブイを案内してくれたのでそのブイに舫う。一日60TLだったが安心して錨泊出来るので今日はここに地泊することにした。

スターンにも岸壁から舫いを取る。

お昼にトマトオムレットとパスタを頂きその後ラバーボートを降ろして近くの入り江の Soguksu Limani に行く。小さな入り江にガレットも含めて10隻以上停泊していた。中々良い場所なので次回来ることがあればここに錨泊してみたい。

Gemiler の泊地にも沢山ガレット船も含めて入ってきている。まさにオンシーズンだ。

暑くなった体を冷やすのは海に浸かるのが一番なので何回も泳いで体を冷やす。暫くは涼しい。

風はセーリングの時は勿論の事、停泊中にも素晴らしい恩恵を受けている。この航海の楽しみに一つに風との対話もある。

夕食は肉じゃが、トマトソースのパスタ、きゅりの浅漬け、昨晚の残りのタイカレー、ご飯を白ワインで頂く。

錨泊時はバッテリーだけになるので電気をあまり使えない。夕食後は星を見ながら食休みをして早く眠りに就くのが習慣になっている。今晚も天の川を見ながら正田さんと私はコックピットで寝てしまう。

夜半になると冷えてきて船内に入る。湿度が少ないので外で寝るのも気持ちが良い。

8月25日(月)Gemiler Fethiye(15NM) 快晴 南西 10~15 ノット

朝食の後ラバーボートで海水浴場まで後学のため様子を見に行ってからひと泳ぎする。

隣のカタマランのヨットの女性はイスラム教のトルコに拘わらずトップレスで泳いでいた。おまけにデッキのシャワーを浴びるときは全裸になっていた。

09:30 にブイから舫いを解き馴染みになった Gemiler から半島を一つ越えた湾内の Fethiye に向かう。

南西の10ノット位の風が吹きダウンウインドタッキングをしながら静かなセーリングを楽しむが丁度マリーナに着くころ風が強くなってきた。静かな風の時に係留したいものだ。

13:30 に Yacht Classic Hotel Marina に着けるがここは VHF の通信が無く、マリーナのスタッフが来てこなかったので電話で連絡したら直ぐラバーボートで来た。

横風が 20 ノット以上吹いている中での槍着けは戦略が必要だ。

3 回目の入港になるがプチホテルのある素晴らしい素敵なマリナーである。

お昼は正田さんがベーコンとズッキーニのグリル、イワシとオニオンの炒め物を冷えたビールでご馳走になる。

海辺の素敵なレストランで錨泊の為暫く電波状況が悪かったためインターネットを休んでいたのチャイを飲みながら溜まった仕事をする。

艇に戻ってからは暫く水浴びをしていなかった艇を洗う。

夕方お洒落なプールで泳いだ後、冷房付きのシャワールームでシャワーを浴びてレストランで食事をする。食事をすると係留料は 40 トルコリラ、食事をしないと 200 トルコリラの料金だがマリナー施設、環境含めてリーズナブル以上だ。

因みに今晚地中海風サラダ、カラマリフライ、スタフッドマッシュルームのグリル、鶏のキャサロール、キョフテのキャセロール、スパゲティ・ナポリターナ、白ワインで食べて係留料 40 トルコリラを加えて 245 トルコリラであった。食事代、係留料込の値段なので大変お得であった。

そして 3 日目に Kas で会った Quentin 夫妻と偶然一緒になる。娘たちはホテルに宿泊して明日フランスに戻るとの事だった。

又食事しているときに近くのテーブルのグループが巻きずしを箸で食べていたので使い方を教えてあげたら大変喜んでいた。

8 月 26 日(火) Fethiye 快晴

今日も静かで青空の朝を迎える。風は一日の日変化で午前中無風からそよ風、お昼前より南西風が吹き出し午後 1 時頃より強くなり 20 ノット位になる。そして夕方治まり日が暮れてから北東の風になるパターンがほぼ連日続いている。気温は艇内で朝方は 26 度位だが日中は 37 度位まで上がる。日中は太陽の下では暑すぎる。日陰で風があると空気が乾燥していて通常湿度 50% 以下なので過ごしやすくなる。風が無いと海に飛び込むしかない。

露が降りる事は無く、夜コックピットで夜風を受けて寝ると気持ち良い。夜半涼しすぎて目が覚めて艇内で寝ることになる。

朝食事前洗濯をして、デッキで干しておいたらお昼にはカラカラに乾いていた。

ホテルの綺麗なプールで泳いだり休んだり、プールサイドのバーで Wifi を使ったりして過ごす。

お昼にチキンキャサロールのラップした料理を頂いた後、Fethiye の町を散策して魚市場でクルマエビを買って帰る。

夕食はこのレストランで今日も食べる。雰囲気の良いレストランで停泊料も安くなるので経済的でもある。豆の本日のスープ、地中海サラダ、スプリングロール、スズキのグリル、ラザーニアを白ワインで頂く。

22:15 ダルマン空港着の便でイスタンブール在中の奥村純代さんが来るので Fethiye のオトガルに迎えに行く。

24 過ぎに無事到着、一年ぶりの再会だった。

タクシーでマリーナに帰ってから皆で一杯飲んで久しぶりの夜更かしをして休む。

8月27日(水) Fethiye ~ Twenty Two (15NM) 快晴 南西 10 ~ 15 ノット

昨晚遅かったので9時近くの起床になる。朝食抜きにしてプールで泳いでから早いお昼を頂く。

昼食後 12:20 に舳いを解き、Skopea 湾の入り江の Twenty two Fathom Cove に向かう。ここも5月と6月に行ったことがあり3回目の訪問になる。

南西の 10 ~ 15 ノットの良い風を受けながらの気持ち良いセーリングを楽しむ。

狭い湾への入り口をセーリングで今回は通過する。15:10 に Amigo's Boat Restaurant の棧橋に槍着けする。既に棧橋は2艇の大きなカタマランともう一艇の艇で占領されていて隣の岸から舳いを取る。岸からもレイドラインがあり助かる。全員で泳いでからレモンを絞って作ったカクテルブルが喉を潤す。

近くの山に登って入り江の様子を上から写真にとる。

5艇がこの係留の限界艇数かと見ていたが、何と9艇の係留になった。

浜辺に机を急遽並べた感じの食卓でメゼ、チュップラと云うタイに似た魚のグリル、チキンキャセロールを持ち込みの白ワインで食べる。釜戸で煮た鍋から各テーブルにそれぞれ注文した分を分けていく。お客さんは50人以上いたが皆さんでキャンプしているような雰囲気だった。

家族経営で、人懐っこいご主人と奥さん、娘、息子たちが働いていた。

最後にスイカとメロンのサービスがあり、お腹いっぱいになり艇に戻る。

今晚は大分涼しくなり外で寝るのは寒いくらいなので、水割り1杯飲んでから艇内で就寝する。

8月後半になり少しは秋の気配になったのかと思う。

8月28日(木) Twenty two ~ Ekrincik (30NM) 快晴 微風 ~ 南西 5 ~ 8 ノット

両サイドぎゅうぎゅうに詰めてあるので出ていくのに両サイドのフェンダーがお互いに絡まないように押しながら挨拶して静々と08:40に出港する。

風が無く行程の半分は機走になる。一時ジェネカーも揚げるが風が前に廻り降ろす。お昼にソーメンを頂いて暫くしてからアビームの5 ~ 8 ノット程度の良い風が吹き出し最後の1時間半位快適なセーリングを楽しんだ。

棧橋を見ると8月20日 Kalekoy で会った Marco Polo 号が係留している。素敵なロシア夫人に再度会えるかもと期待する。

14:20に舳い、早速泳ぐ。泳いだ後のスイカが美味しい。

一休みしているとロシア夫人のグループが帰って来て再会を喜ぶ。偶然の再会であった。

夕食はレストランに行かず、Fethiye の肉屋で仕入れたラムチョップを艇で頂く。

艇内はガスレンジを使うせいもあり35度以上あり大変暑い。その中でいつも悦子は料理を作ってくれるので大感謝である。

トルコのラムは美味しく、今日のラムチャップも大変柔らかく味も最高だった。

ニンジンとトマトのサラダ、ナスとペッパーの中華風炒めを純代さんが持ってきてくれたリオハの赤ワインで頂く。

8月29日(金)Ekrincik ~ Marmaris (21NM) 快晴 微風

今日は私の69歳の誕生日になる。健康に生んでくれた両親に感謝する。

ひと泳ぎした後10:20に棧橋を離れ静かな湾を出る。出たあたりから少し良い風が吹き出しセーリングを楽しむ。Ekrincik と Marmaris の間には軍の施設がある湾がありその沖合は制限地区になっているので、その制限地区を迂回する航路を取る。但しガレット船は平気で中を通過している。他のヨットが途中から制限地区に入っていたのでその後を行き近回りした。

ここ Marmaris は昨年1か月夏停泊したところでその後も何回か来ているので懐かしい所だ。今までここでは Nestle Marina, Yacht Marina, Albtros Marina と3か所に係留したことがあるが、料金の安い Albtros Marina に15:40 アンカーを船首から打って槍着けにする。

一休みの後町にタクシーで行き明日の Dalyan 行の観光船の予約をしに行く。

朝9時発夕方7時着、お昼、泥温泉、海水浴付きで65トルコリラのお得なコースだ。昨年この観光船に乗って楽しかったのでこの船にした。

夕食はハモンセラーノでブルを楽しんだ後、久しぶりの稲荷寿司を頂く。

食後サプライズで正田さん、奥村さんがこっそりケーキを用意してくれ私の誕生日のお祝いをしてくれた。これからも健康に留意して航海を続けたいものだ。

